

# 移動診療所を計画

AMD Aと タイ政府と交渉へ  
倉敷・永瀬さん

アジア医師連絡協議会 (AMD A、本部岡山市橋津)と、映画「戦場にかける橋」のモデルになった泰緬(たいめん) 鉄道建設時の実態を伝え続けている倉敷市大島、元陸軍通訳永瀬隆さん(セム)が、同橋が架かるタイ・カンチャナブリ市を拠点とした移動診療所の開設を計画。近くタイ政府と交渉に入る。

移動診療所は、山岳少数民族の子や孤児の教育に役立てようと、永瀬さんが十一年前に設立した奨学金「クワイ河平和基金」を活用。具体的な内容はまだ決まっていないが、AMD Aが医師、看護婦の派遣などの運営を担当。一年以内をめどに同市内の病院に拠点施設を構え、四輪駆動車を使って病院まで遠い町や診療施

設を持たない村の巡回診療を始める考え。

永瀬さんによると、同市周辺ではマラリアなど熱帯性の疫病がいまだに多く、満足の医療を受けられない人が多数いるという。

永瀬さんは第二次世界大戦中、カンチャナブリ憲兵隊の通訳として、泰緬鉄道建設にかかわった。現地で連合軍捕虜、アジア人労働者が死んでいくのを目の当たりにしており、以後、タイで戦後補償活動に従事している。

永瀬さんは「悲惨な過去を教訓に、戦争の舞台を平和・福祉の舞台に変えたい」と話し、菅波代表も「タイには医療すら受けられない地域があり、地域保健福祉活動は大変意義がある。全面的にバックアップしたい」と言っている。